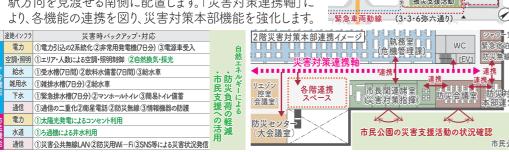


- 市民公園と駐車場は、一体的な利用が可能な配置とし、外 部支援部隊の受入や市民一時避難場所として機能します。
- 市民ゾーンは一次避難者支援機能に転換します。市民公園 と庇下でつながり、フェーズフリーに災害時に活用されます。
- ・多重バックアップによる災害後7日以上のBCP確立とともに、 自然エネルギーを利用した防災負荷の低減を図ります。
- ・市長関連諸室・防災対策諸室を2階に集約し、市民公園や 駅方向を見渡せる南側に配置します。「災害対策連携軸」に



災害時における拠点機能の充実、ライフサイクルコストの縮減(イニシャルコストの縮減)

- 「窓口系執務室」「市民ゾーン」を1階に全て配置するとともに、各 機能の防災上の重要度により、合理的に免震範囲を縮減し、経済 的かつ災害対策拠点機能を高めた計画とします。
- · 関谷断層地震(短周期地震) · 東日本大洋沖地震(長周期地 震)両方に対応可能な免震装置「球面滑り支承」を採用します。
- ・執務室中央部分を無柱とするとともに、DT床版によって、落下リス トの天井の削減や、コスト高のロングスパンPC梁を削減します。 ■建物ボリューム比較 ※基本計画記載の1階配置の 窓口部門:約2,500㎡ 市民ゾーンのうち窓口業務との連携に 窓口部門:約2,500㎡ か要な機能は免震範囲に配置を想定

機能と面	積 合計:約6,500m ²	その他:約1,500㎡	200 C 100 C
	2階建て案(基本計画)	3階建て案(基本計画)	今回計画
建物断面イメージ	8500 mi 8500 mi	4000㎡ 6500㎡ 6500㎡	500m 3時2に 対応も可能 5500m <u>5500m</u> <u>5500m</u> <u>5500m</u> <u>572・ホール</u>
躯体⊐スト	△:免震装置が多い	○:免震装置が多い	◎:免震装置が少ない
掘削量	△:約42,500㎡	△:約32,500㎡	○:約27,500㎡+2,000㎡
工期	△:建築面積が大きく長工期	△:免震範囲が広く長工期	○:一部鉄骨造で工期短
耐震性能	○: 庁全全休が免雲	○: 庁全全休が免雲	○:防災機能免費+ 類耐器



公田市駐市場継続利田

災害時庁舎機能継続

災害情報発信

→∭∭利用

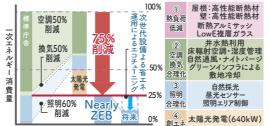
道53号增公用車公用車

帰宅困難者 一次受け入れ

炊き出し拠点

庇下での災害対応一

- 冬の北西の強風「那須おろし」を防風林と庁舎 北側の開口を絞ることで防止します。夏・中間期 の南風を市民公園のグリーンインフラで冷やし、 庁舎南からゆるやかに風を通します。
- 高原気候の特徴である夏場の昼夜間温度差を 活かし、夜間の外冷気を取り込み、RC造の躯体 を冷やし蓄熱することで、空調負荷を減らします。
- ・将来の温度上昇を考慮し、"人の温冷感"に寄り 添う「居住域空調 | と「湿度管理 | を行い、省工 ネかつ快適性の高い環境をつくります。
- BEMSによる省エネ最適化や水素技術などの 次世代機器への更新を見据えた計画とします。





グリーンインフラにより 冷却された夏の夜風 (冷風: 20° 程度)

南側開口大

ライフサイクルコストの削減(イニシャルコスト・メンテナンスコストの縮減)

来の経済・脱炭素につなぐ"地域と共に生きる"循環庁舎

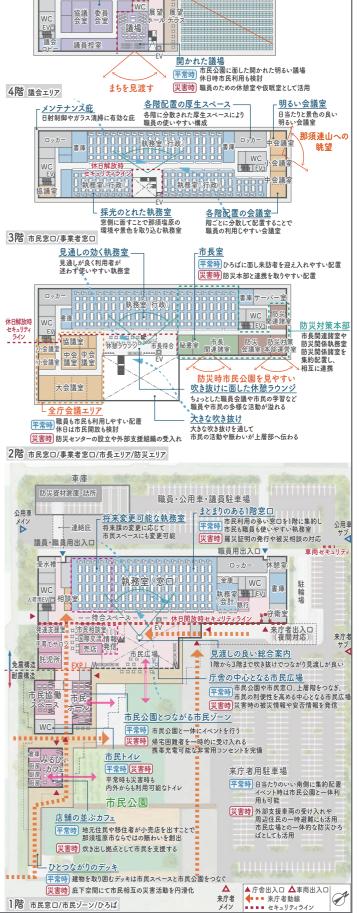
外気を遮断

北側開口小

- 最大3mの敷地高低差を活用し、敷地をゆるやかな 勾配に盛り土することで、建設排出土を縮減します。
- コストとともに建設時CO2排出量を抑制します。
- ①外装保全、②設備点検、③将来更新、④運用支 援への対策を行い、メンテナンスコストを縮減します。
- 那須の木材や地域資材の活用、カフェの木造化や 躯体の脱炭素素材の検討により、建設製造運搬で のCO2排出量を減らし、脱炭素に貢献します。
- 地域素材・エネルギーの地産地消や、建設から解体 にかけた3R(リデュース・リュース・リサイクル)を目指 し、那須塩原地域資源循環共生圏に貢献します



循環共生圏への貢献 ④素材・エネルギーの地産地消⑤3Rの実現



那須連山の見える展望ホール

集約化された議会機能·